

協定校が提供するオンラインプログラムに参加した学生の報告書より抜粋

【インドネシア：東ジャワ 10 大学サマープログラム】

このプログラムでは、10 回に分けて各大学の教師がプレゼンをする形でオンライン授業が行われました。授業のテーマは毎回異なり、主にインドネシアの言語や、歴史に関するテーマが多かったです。グループディスカッションの機会は、2 回ほどしかなかったですが、先生に当てられて、意見を言う機会があったため、テーマについて学び、自分の立場に置き換えて考えることが求められました。授業では、Kahoot というゲームを行ったり、インドネシアの伝統的なダンスやパフォーマンスを見たり、ダンスを踊ったりしました。このプログラムの参加者は、インドネシア人だけでなく、フィリピンやヨーロッパの人、オーストラリア人など様々な外国の方が参加していました。コロナの情勢下では、留学や国際交流がなかなか出来ない状況が続いていますが、このオンラインプログラムを通して、様々な国の人と交流でき、他国の文化や歴史を学べたので良かったです。

~~~~~

このプログラムに参加して学んだことが大きく三つある。

一つ目は、海外に留学しなくても英語に触れることができるということだ。私は今まで、英語を学ぶとしたら海外留学が最も有効な手段であると持っていた。もちろん、海外留学をすることで国の文化や方言・イントネーションを詳しく学ぶことができるかもしれない。しかし、オンライン上であっても留学生と交流したり、国の文化を学んだり、プレゼンテーション発表を行うことができた。新型コロナウイルスにより、海外留学が難しくなっているいま、このようにオンラインで学ぶことのできる機会は大変貴重ではないかと考えた。

(途中省略)

三つ目は、留学生が積極的に発言していたことだ。私は英語に関しては控えめになってしまう上に、オンラインで話しづらいことから、受け身な授業になっていた。しかし、他の学生はチャットで講師に質問したり、口頭で自分の考えを述べており、尊敬するところが多くあった。このような中で、最後の授業ではグループでプレゼンテーション発表があった。グループ内で事前の打ち合わせや練習をしていくうちに、英語の雰囲気慣れていく感じがした。プレゼンテーションでは、グループ内で自分の役割を果たすことができ、メンバーのみんなとも仲良くなることができた。一般的に、日本人の持つ英語に対する姿勢は控えめであると言われている。そのため、このような授業・発表などを通して、少しずつ英語に慣れていけたと感じた。

~~~~~

【インドネシア：ハサヌディン大学プログラム】

今回のプログラムを通して、インドネシアの文化について学んだとともにインドネシアという国に以前より関心を持つようになった。また、インドネシア以外の東南アジアの国々にも興味が湧き、先日佐賀市で開催されたタイフェスティバルに友人を誘って参加してみ

た。このように、異文化に触れることでさらなる体験をすることができたり、周囲の人々が異文化に興味を持つきっかけを与えられたりするのだと思った。

今年、新型コロナウイルスの影響で様々なことを制限されてきたが、ハサヌディン大学の方々がオンラインのプログラムを用意してくださり、家にいながら異文化に触れ、学ぶ機会をいただけたことに感謝したい。

~~~~~

このプログラムはすべて英語で行われたのですが、私はこんなにも英語だけに頼ってコミュニケーションをとったのが初めてだったので、講義を大まかに理解できたり、私の言ったことを理解してもらえて、とても嬉しかったです。また、他の国の学生たちが質問をたくさんしたり、講義の途中にもチャットでどんどんコメントを出していたのに驚きました。日本だと質問タイムでも沈黙になってしまうことが多いですが、他の国の学生はもっと主体的に取り組んでいて、誰かが質問することで他の人の理解も深まるし、先生もやりがいを感じられるし、議論が活性化したりその場の雰囲気良くなるので、すごくいいなと思いました。私も今後、授業の質問タイムには質問をしようと思いました。

私はこのプログラムに参加して、インドネシアの、特に南スロウェシという地域のことを学び、ますますインドネシアに興味が増えました。他の地域にはまた違った文化もあると思うので、もっと学びたいし、インドネシアに行ってみたいと思いました。このような貴重な経験ができてよかったです。ありがとうございました。

~~~~~

【中国：首都師範大学中国語プログラム】

今回、初めてオンラインで中国語の授業を受け、中国語への関心が高まりました。オンラインということで最初は不安でしたが、他の国の生徒とも交流をしながら楽しく学習することができました。参加して1番よかったと思う点は、先生が誤った自分の発音を正しくしてくださった点です。生徒一人一人が新出単語を読み、よかったら褒めてくれて、間違っていたら正しい発音を教えてくださいました。自分ではうまく発音ができているつもりだった時は、先生が舌の位置や、息の使い方をイラストで分かりやすく説明してくれました。ビデオをオンにすることで先生の口の形をよく見ながら発音することができました。また、先生から正しい発音のインプットを受けたあと、すぐにアウトプットとして他の生徒と新出単語を用いた対話を行うことで、すぐに頭に入りました。復習として先生のスライドをノートに書き写すことで、書くことにも慣れ、更なる理解に繋がりました。1か月間、基礎をしっかり学ぶことができたので、今後は独学で勉強ができそうです。そしていずれは、中国に留学かワーホリに行きたいと強く思いました。今後は、中国語の勉強はもちろん、中国の歴史、文化、政治、国際問題等も学んでいきます。

~~~~~

## 【インドネシア：スラバヤ工科大学 CommTECH プログラム】

今回のプログラムは、完全なオンライン型のプログラムで、授業の内容を理解することができるか、グループワークがうまくできるかなど不安がありましたが、先生方やスラバヤ工科大学の学生の方の手厚いサポートのおかげで、プログラムを楽しみつつも貴重な経験を得ることができました。今回は、プログラムの内容がプラスチックごみの問題を取り扱っていて、その中でも特に、ゼロウェイストストアについて詳しく学んでいきました。

プログラムの前半は、それらについての講義を受け、その後にインドネシア文化に関する講義を受けるという形式になっていて、後半は、主にグループワークを進めるという形式でした。具体的にはグループワークで、統計処理の練習、最終プレゼンに向けてのアンケート調査・結果の分析、ポスター作成、論文の作成、最終プレゼンの準備などを行いました。講義の中で印象的だったのは、毎日講義の最初に、先生が kahoot や menti というホームページを利用して作成したクイズで前日の講義の内容の復習を行ってくれたことと、先生が一人一人の名前を呼んで、プラスチックごみに対する意見や前日の講義内容に関する感想など簡単な質問に答えるという機会があったことです。このような工夫によって、理解を深めることができたとともに、ほぼ毎日自分の考えを英語でアウトプットできる機会が得られました。また、それらによってオンラインの授業でも、「授業に参加している」と感じることができました。これは、学部の講義を前期に受けていた時にはなく常に一人で授業を「見ている」という感覚だったので、とても新鮮で、かつ素晴らしい授業方法だと思いました。

また、グループワークでは、日本以外の国からの参加者との英語力の違いと自分の経験の浅さをとても感じました。インドネシアとベトナムの学生は学術的な内容になっても、自分の考えを伝えたり、講義の内容を説明したりすることができていましたが、私にはとても難しく、言いたいことを相手に理解してもらうのには苦勞しました。さらに、プレゼンの仕方やエクセル、統計ソフトの使い方、英語での論文の書き方など、私には日本語でもわからないことばかりでした。しかし、彼らは私の拙い英語をじっくり聞いてくれ、私が言おうとしていることを理解しようとしてくれたため、とても嬉しく、とりあえず言いたいことがあったら頑張って伝えてみようと思うことができました。

今回のプログラムを経験して、様々な知識を得るとともに、多くのことに気づくことができました。それらを踏まえた上での私の次の課題としては、英語のスピーキングを上達させることはもちろん、プレゼンテーションの経験を積むこと、統計処理などの知識をつけることです。これらはすべて今後の卒業研究・発表、就職活動、さらには就職した後でも活かせるスキルだと思います。

~~~~~

【カナダ：ウィルフリッドロリエ大学 Intercultural Certificate Program】

今回私がこのプログラムに申し込んだ理由は、ウィルフリッドロリエ大学での交換留学を検討していて、どのように異文化間でのコミュニケーションをとるのがよいか学びたいと思っていたからです。今年は新型コロナウイルスの感染拡大のため、私が申し込んでいた交換留学は中止となってしまいましたが、そのような状況の中でもオンライン会議システムを活用して海外の大学のワークショップが受けられるのは非常に良い機会であったと思います。また、異文化コミュニケーションに関する授業は佐賀大学ではあまり受ける機会がないのですが、今回のワークショップのテーマは自分が興味を持っていた分野と合致していたという点でとても有益な経験を得られたと感じています。

このプログラムを通して、異文化コミュニケーションについて学び、英語を使う機会を得ることができ、日本にいながらもとても有意義な時間を過ごすことができました。

~~~~~

私がこのオンラインプログラムを履修した理由は二つあり、一つ目は新型コロナウイルスの影響で決定していたにもかかわらず今年の留学を断念せざるを得なかったこと、二つ目は、2年前にウィルフリッドロリエ大学から来ていた佐賀大学で留学した友人の勧めである。

通常、大学の対面授業では、最近の動向として、アクティブラーニングが取り入れられようになった。授業内で周りの学生と話し合い、先生と直接コミュニケーションを取る方式だ。私が以前履修したいくつかの授業はその形式が取り入れられていた。私にはその学び方が合っていたように感じる。それがオンライン授業だとどうだろう。ただでさえ対面授業内でアクティブラーニングを取り入れた授業が少ないにもかかわらず、オンライン授業では顔すら見せない学生、発言しにくい環境など、面白いはずの授業がただのカメラに向かって話す誰かと聞こえてくる雑音でしかないのだ。

ところが今回履修してみたカナダの大学の授業はどうだっただろう。各授業でグループに分けられディスカッションの時間が設けられる。そこで学生全員が積極的に意見を交わし合う。そしてまとめた意見を全員の前で発表する。時に質問のある学生が授業中に発言する。私が経験した佐賀大学のオンライン授業では極めてあり得ない状況に遭遇してしまい、こういった面でも多くの学ぶことができた。

このカナダのオンラインコースは、留学先はこういった雰囲気学習環境であつたらうと思えるようなかけがえのない貴重な体験となった。